

今後の検討について（案）

第1回、第2回の検討会における意見等、及び今年度中にデータベースの初期仕様を確定させる必要性を踏まえ、今後のデータベースに係る検討においては：

検討のスケジュール感について

- 短期の課題（初期仕様に盛り込むことが予定できる項目に関する課題）と中長期の課題（データベースに盛り込むとしても、初期仕様に間に合わせることは難しい項目に関する課題）を分け、今年度は前者を重点的に議論してはどうか。
- 短期の課題については、研究に利用可能な項目のうち、
 - 既に電子化されている
 - 現場の負担を増やさずに収集できるといった観点から初期仕様で収集する項目に関する議論を行ってはどうか。
- 介護現場からのデータの収集については、研究に十分な n 数が確保できるのであれば必ずしも悉皆調査に限らず、当面はデータ収集の労力が比較的少ない一部の事業所（※1）や一部の利用者に対象を絞ることも視野に入れてはどうか。
※1 例えば「施設系サービス」「既に〇〇について電子的に取得している事業所」

「介入」のデータ収集について

- 介護総合データベースの要介護認定調査データ、VISITのADL、IADL等の情報、介護支援専門員によるアセスメント等、「状態」の情報については比較的収集の目途がある一方、「介入」情報の収集についてはあまり目途が立っていないため、重点的に検討してはどうか。
- 「介入」情報については、一連の介護行為をパッケージとした方が取り扱いしやすいという考えがある一方、レセプト情報では研究上のニーズに対し粗すぎるということがあるという問題意識もあり、研究上のニーズや現状どのような細かさ・粗さで電子化されているのか等を踏まえながら、適切な細かさ・粗さのレベルを見極める必要があるのではないか。

「状態」のデータ収集について

- 「状態」の評価について、現在、複数の指標が使われているものの標準と呼べる指標がなく、互いの換算も難しい場合は、データベースで用いる指標を一つに絞らず、当面は複数の指標を用いた入力を認めることも考慮してはどうか。
- 「状態」の評価について、現在、評価指標が特になく、評価情報の取得や収集が難しいものであっても、介護サービスの質に深く関わると思われる内容（※2）については、評価のあり方も含め、中長期の課題としてはどうか。

※2 例えば「利用者の満足」

「イベント」のデータ収集について

- 「イベント」については、定義（※3）を再確認・共有した上で、必要な議論を行ってはどうか。

※3 今回の検討では、利用者の健康状態に急激な変化を生じさせうる出来事（受傷、罹患等）の発生、及び利用者の健康状態の変化を反映する出来事（入院、死亡、自宅復帰等）を「イベント」として捉えている。